

春日部市立医療センターにおける救急医療について



山崎 進
議員



春日部市立医療センターは、平成28年7月に医療を開始して、7年が経過しました。ドクターや看護師の患者さんへの対応は、安心してお任せできる医療体制であると感謝しています。一方、救急車の受け入れについては、医療センターへお願いしても、他の医療機関に搬送されてしまうこともあります。市民の救急は、是が非でも受け入れていただきたいと思いますが、医療センターにおける救急医療の現状を伺います。

また、救急患者の受け入れができない要因と今後の受け入れの充実に向けての取り組みについて伺います。

○病院事務部長

救急車の受け入れについては、令和3年度以降、行動制限の緩和などもあり、要請件数、受け入れ件数ともに増加している状況で、可能な限り救急患者の受け入れに努めて

います。

全ての要請を受け入れできない理由については、他の患者の対応を行っている場合など「処置中」が最も多く、限られた体制において断らざるを得ない状況もあるという現状です。

受け入れ体制の充実に向けた取り組みについては、消防職員を交えた協議や事例検討等を定期的に行い、受け入れ件数の向上に取り組んでいます。今後も救急専門医の確保など、体制の充実に努めます。

このほか

○防災対策について



救急搬送する救急車

デジタル地域通貨について



栗原 信司
議員



地域通貨に関しては平成16年に取り上げ、関連した事業として、介護予防に特化したボランティアポイント制度として動きましたが、予算要望などを通じ、本来あるべき地域通貨事業の導入を求めています。

その後、新型コロナの影響で市内経済はもとより、国内的に景気が厳しくなったことを受け、国として支援策を打ち出し、春日部市としてもこれを財源とするプレミアム付電子食事券の発行などに取り組んだところです。本来求めてきた形に一步近づきました。また同様に、大手企業がキャッシュレス決済などを強力に進めたことや、国がマイナンバーカードの普及促進を図ったこともあり、キャッシュレス決済という仕組みや、デジタル地域通貨的な背景、基盤が整ってきました。そこで、改めてデジタル地域通貨に関

する市の認識を伺います。

○市長

デジタル地域通貨を導入している、いずれの事例も地域内の経済活性化を目的として取り組まれており、効果的な施策の一つとして認識しています。今後、関係する皆さまからもご意見をいただきながら、本市における持続可能なデジタル地域通貨について導入が可能か検討していきます。

このほか

○ユニバーサルシートの設置について

○冠水時の市道の安全対策について

一ノ割周辺地域の整備について



木村 圭一
議員



駅利用者の利便性向上に向けた改善をしてほしいことから、何度か議会で取り上げましたが、これまでの答弁では、駅の橋上化と周辺のまちづくりを一体的に進めるとのことです。一体的となると、住民などとの合意形成にも相当な時間を要することから、今回

提出された請願のとおり、駅西口に改札を設置できないか。また、駅地下道では、自転車や電動車などが通れないことから、自転車などが利用可能なエレベーターを設置できないか。さらに、駅周辺の一体整備に向けた地域住民との合意形成を、市長はどのように行っていくのか伺います。

○都市整備部長

改札の設置は、設備の新設や駅員の配置、利用客の動線確保が必要となり、橋上化を見据えた上で、暫定的でも利便性の向上につながる方策を、東武鉄道と協議していく必要があると考えています。

○建設部長

エレベーター設置は、用地の確保など、多くの課題があると捉えています。

○市長

地元地権者や住民の皆さまのご意見、ご協力を賜りながら、今後を見据えたまちづくり構想について共通認識を図っていきたくと考えています。

このほか

○生活保護者の自立支援について

○浸水対策の強化について

○地域ブランドや、地域農産物について

ネーミング ライツについて



奥沢 裕介
議員

持続可能な施設運用の一助として、公共施設のネーミングライツにて得られた諸収入を、施設の維持管理費に充当している自治体が増えていきます。

三郷市のセナリオハウスフイールド三郷のように、ネーミングライツに併せて有料看板などの広告収入を得ることも有効な施策になると考えています。

特に、これから新設や改修などを検討する場合、施設的设计段階からネーミングライツと併せて広告収入を見込むことが可能かを検討していく必要性があると思いますが、本市としての考えを伺います。

○総合政策部長

本市において、今後も行政需要の変化に対応し、持続可能で質の高い行政サービスを提供していくためには、自主財源の確保に積極的に努めていく必要があります、ネーミング

ライツと併せて広告収入を得ることにしても広告の掲載場所を含め、検討していく必要があるものと考えています。

○市長

ネーミングライツについては、本市における安定的な財源確保の観点から、有効な手段の一つであると認識をしています。

そのため、ネーミングライツの導入や広告収入などにより、本市の自主財源の確保に努めるとともに、施設の魅力や市民サービスの向上につながるよう、実現に向けて検討を進めていきたいと思えます。

コロナワクチンのメリット、デメリットを春日部市民はどこまで理解できているのか



石川 友和
議員

大阪の泉大津市でのコロナワクチンの対応を伺った上で、とても共感できる部分がたくさんありましたので、どこまで打つ必要があるのか、無料だからと軽い気持ちで接種するのではなく、将来の自分のこと、家族、恋人のことを真剣に考える機会にしてほしく、

今回の質問に至りました。そこで、以下伺います。

- ①オミクロン株B A 4 / 5の2価ワクチンは、マウスでしか試験を行っていないが、市は理解をしているのか②ワクチン秋開始接種のお知らせが私にも届いたが、同封された内容を見てもメリット、デメリットの記載がどこにもない③秋開始接種における春日部市のコロナワクチン接種の対応について。

○健康保険部長

①2価ワクチンは、非臨床試験において、さまざまな変異株に対する予防効果が確認されたことから、薬事承認されたものと認識しており、適切なタイミングで、より効果のあるワクチンを使用することが必要であるとの判断から使用してきたものと考えています。

②秋開始接種については、使用されるワクチンが承認される前に接種開始日が確定していたことから、ワクチンなどを含め、詳細な内容に触れずに接種券を発送したところですが③市医師会と協議を行い、乳幼児(生後6カ月から4歳)の接種券については、初回接種を含めて申請による交付としたところであります。

道の駅「庄和」 新たなステージに向けて



吉田 稔
議員

道の駅「庄和」は、庄和商工会が指定管理者として管理運営し、オープンして19年目となります。庄和エリアにて農業や商工業の中心として、にぎわいの創出や地域の発展を支えており、新たに国が推進している「道の駅第3ステージ」について検討しています。そこで、以下伺います。

①現状の課題について

②春日部市として、今後の道の駅「庄和」に期待すること

○環境経済部長

①道の駅「庄和」における課題ですが、3点あります。1点目は、来館者数が年々減少傾向にあること。2点目は、県内において、新たな道の駅の整備検討が進められていること。3点目は、施設の老朽化です。オープンから18年が経過しており、設備の更新時期も迎えています。

○市長

②農産物直売所である道の駅

「庄和」が、本市の観光資源として、今後ますます重要な拠点になっていくことを期待するとともに、県外からも観光客が多く訪れるような観光スポットを目指していきたいと考えています。「防災道の駅」や「道の駅第3ステージ」の内容についても、民間のノウハウなどを活用しながら進めていきたいと考えています。指定管理者と一緒に全国のモデルとなつていような取り組みの現場も確認しながら、前向きに活動している指定管理者をしっかりとバックアップしていきたいと思えます。



道の駅「庄和」

生命（いのち）の 安全教育について



藤原 智子
議員



子どもたちを性暴力の被害者、加害者、そして傍観者にさせないために、幼児期から発達段階に応じて学ぶ「生命の安全教育」は、2023年度4月から本格的にスタートしました。

「生命の安全教育」に取り組まれている春日部市内の学校の中には、外部講師による授業が行われた学校もあります。生命と性に1番近い存在である助産師など、資格のある外部講師による授業を行う意義を強く感じました。

指導については、さまざまな課題もあると思われまます。教育長は今後「生命の安全教育」を、どのように推進していく考えなのか伺います。

○教育長
性犯罪、性暴力から子どもたちを守ることは、全ての学校が丁寧に取り組む必要があると考えています。生命の安全教育について、本市として

は、県教育委員会などと連携を図り、教職員を対象とする研修会の実施や、発達段階などのニーズに応じた指導者の紹介、情報提供、情報共有に努めていきます。

どの教員にとっても指導がしやすく、子どもたちにとっても分かりやすい生命の安全教育を推進し、子どもたちを性犯罪、性暴力の被害者、加害者、傍観者にさせない教育に取り組んでいきます。

このほか

○武里地域におけるリノベーションまちづくりについて

○介護予防の推進について



生命の安全教育（イメージ）

「住民が主人公」 市民参加、市民協働の 仕組みづくりを



並木 敏恵
議員



春日部は、人口減少が続き、活気が失われています。活気と魅力あるまちにするために、市民参加、市民協働で市民パワーを市政に生かすことが必要です。

若者の力によるまちづくりを目指し、中学生・高校生の少年議会の政策を実現している山形県遊佐町に学び、少年議会、子ども議会で若者や子どもたちの声を市政に生かすべきと思うが、どうか。

市民参加、市民協働のセンター「市民活動センター」の運営を指定管理者制度で民間株式会社が行っていることは問題です。市民団体の88%が市と協働したいと望んでいますが、市の協働したいと望んでいない。市民の声を正面から受け止め、共に知恵を絞って「市民が住みたい魅力あるまち」を共につくっていくために、市民活動センターは市が直接運営すべきではありませんか。

○こども未来部長

今後策定する「こども計画」において、子ども議会なども含めて、子どもの意見を市政に反映させる取り組みについて、検討していきます。

○市長

市民活動センターの運営は、民間のノウハウを生かすことで、多様化する住民ニーズに応えやすくなり、従来の自治体にはないサービスが期待できることから、今後とも連携を図りながら進めていきます。

このほか

○ベネッセスコア型テスト「GTEC」について

猛暑がら 子どもたちを 守るために



古沢 耕作
議員



今年の夏は日本全国、また世界中で大変な暑さが続き、最高気温35度を超える猛暑日の日数は、各地で過去最高を記録しました。国連の事務総長も「地球温暖化」を超えて「地球沸騰化」の時代に入ると警鐘を鳴らしています。この暑さは、特に身体が成長

長段階にある子どもたちに大きな影響を与えています。そのことを踏まえ、小・中学校、義務教育学校での暑さ対策について伺います。

①この猛暑が子どもたちに与える影響について、どんな危機感を持ち、対応しているのか、教育長にお聞きします。

②それを踏まえた、具体的な対策について伺います。

○教育長

①子どもたちの熱中症が心配されたため、早い段階から対策に取り組み、登下校時や授業中、特に屋外における熱中症対策について、各校に通知文を出し、校長研究協議会などにおいても指示しました。

○学務指導担当部長

②登下校では、日傘や冷感タオルの使用、麦わら帽子の着用を可とする小学校や、体操着での登校を許可する中学校があります。また、教室ではエアコンや扇風機などを適切に利用したり、水泳の授業は涼しい時間に変更したりしています。中学校の部活動においても同様の対応を行っています。

このほか

○パートナーシップ制度導入後の状況について

春日部市における 産業基盤整備について



会田 吉幸
議員

平成25年に庄和地域と春日部市街が1本の道でつながり、まさに合併の象徴である藤塚米島線沿道には、いろいろな店舗などが立ち並び、にぎわいをみせる道路、地区になると、庄和地域の住民は思っていました。

しかし、開発の指定基準からすると、この沿道の開発はまだまだであります。数年後には東埼玉道路が赤沼・銚子口地区に入ってくるという中で、この東埼玉道路のインターチェンジに近い庄和地域の永沼地区は非常に高いポテンシャルがあると思いますが、藤塚米島線の通る永沼地区の今後のまちづくりについて、市はどのように考えているのか伺います。

○都市整備部長

永沼地区については、第2次総合振興計画および都市計画マスタープランにおいて、国道4号バイパスや東埼玉道

路などの広域幹線道路の結節点周辺の利便性を生かし、産業・流通系土地利用の誘導など、新たな産業集積の土地利用を検討する産業集積検討ゾーンとして位置付けています。

また、国道4号バイパスや藤塚米島線などの広域幹線道路の沿道については、交通の利便性を生かした沿道利用の産業立地を誘導する沿道ゾーンとして位置付けています。永沼地区においては、長期的な視野の下、引き続き新たな産業集積を図る土地利用の可能性について検討していきます。

学校・公共施設の トイレの個室に 無料の生理用品を



木下三枝子
議員

令和4年7月の内閣府の調査では、県内の7割弱の自治体が女性の健康や人権に深く関わる「生理の貧困」に何らかの対応をしています。

市内の小・中学校など的一部でも教室と保健室が遠いことから、今年度からトイレの個室に生理用品を設置する取

り組みが始まりました。

今ではスタンダードになった学校や公共施設のトイレレットペーパーの設置も過去にはそうではありませんでした。生理用品も同様に衛生消耗品であり、世界でも日本でもトイレに設置しようとの機運が広がっています。そして、市の施策の決定にはジェンダー平等の視点が求められており、女性や子どもの尊厳と健康を守り、社会生活で一割も時間を割かれる生理における不平等を少しでも軽くしてほしいという当事者の声に応えて、全ての公共施設のトイレの個室に生理用品を設置すべきと考えますが、市長の考えを伺います。

○市長

安全で衛生的に生理を迎えられる環境の確保は、女性の基本的な人権として尊重されるべきものと認識をしています。生理用品配布については、現状を維持しつつ、どのような場所、形態での支援が適切であるか、現場の意見等も参考に、十分に見極めていきます。

このほか

○市民の多様なニーズに寄り添った第四次春バス運行計画策定を

内牧黒沼公園について



金子 進
議員

内牧黒沼公園はハス池、シヨウブ花、ジニア畑、ホタル小屋があり、これらの管理について質問します。この公園に数年前から雑草が目立ち始め、今年は雑草の繁茂が広範囲に増えてしまいました。特にハス池は背の高いヨシやガマなどの雑草が増えて、ハスの花は狭いところに咲いていました。このヨシやガマなどの雑草を除去し、以前の景観に戻してもらうための対策について伺います。

○建設部長

雑草が繁茂するという現状を解消するためには、雑草だけでなく、抜本的な対策が必要であると認識しています。対策については、初めにハス池の水を抜いて土を掘り起こし、ハスの株とヨシやガマなどの雑草の根を引き離します。次に、今回と同様な状況になった平成20年度の事例を参考として、ハスの株の生育

状況や土壌環境を専門業者と確認し、土壌改良などの必要な対策を行います。次に、改良した土壌へ株分けを行ったハスの株を戻し、その後の雑草の繁茂状況やハスの開花状況を確認する予定です。

これらの対策はハス池全体ではなく、実施箇所を限定して行い、その効果を十分検証した上で次年度以降、順次実施するなど計画的な対策を行っていきたいと考えています。

このほか

○A21号橋架け替え工事に伴う懸案事項について

○自治会について



内牧黒沼公園のハス